

# 「日本東洋医学会会員の鍼灸臨床における経穴の使用頻度に関する 調査研究（鍼灸治療を実践する会員を対象として）」の研究協力への説明文

この度「日本東洋医学会会員の鍼灸臨床における経穴の使用頻度に関する調査研究」を実施するにあたり、説明文書に記載されている下記の説明について十分に納得し、その必要性を認めたので本研究に参加することに同意します。

## ● 研究概要

日本東洋医学会に加入している鍼灸臨床家を対象として、臨床における経穴の使用頻度についてアンケート形式で調査するものです。そして、臨床方式の違いによる経穴の使用状況についてその特徴を分析する予定です。

## ● 研究の意義

現在日本で教育されている経穴 361 穴および経外奇穴 32 穴は、当然のごとく教授されているのが現状で、その臨床的な使用頻度や重要性等に関する検討は、一部の臨床家が喧伝しているのみで、ほとんど明らかにされていないのが現状です。日本の鍼灸臨床の現場において実施されている経穴の使用頻度について明らかにすることは非常に重要であると同時に、おそらく今回初めての検討です。

## ● アンケートの調査方法

日本東洋医学会の会員を対象として、学会雑誌及び学会ホームページ上に研究の目的及び概要について掲載し、研究の趣旨に同意された会員に対してアンケート調査を実施します。

学会のホームページにダウンロードファイルをアップロードし、ダウンロードファイルにアンケート調査されたものをメールに添付して回収する方法で回収します。③回収されたアンケート用紙またはデータファイルは、篠原昭二が管理し、データファイルにはパスワードを設定し、研究者以外の閲覧は出来ないように配慮します。また、アンケート用紙はあらかじめ性別、年齢、臨床歴、所属する学会・研究会等は回答いただきますが、氏名等の個人を特定しうる情報は掲載しません。メールのデータおよび履歴は、エクセルファイルへ転記後廃棄する予定です。

## ● アンケートの実施期間

平成29年3月から29年10月末日までにアンケート調査を行います。

## ● 研究組織

九州看護福祉大学 教授 篠原昭二

九州看護福祉大学 専任講師 内田匠治

九州看護福祉大学 大学院健康支援科学専攻 三谷直哉

## ・ 同意書

研究に参加するための同意書については、アンケートに記載して送付いただいた段階で同意があったものとみなさせていただきます、文書での同意書の添付は省略させていただきます。何卒ご理解の上、本研究にご協力くださいますようお願い申し上げます。

九州看護福祉大学大学院健康支援科学専攻  
篠原昭二